規 則 上 注 意 す べ き 事 項

以下に記す規則は、文言も含め、これがすべてではなく、あくまでも基本的な事項として、例示的に記しています。

必ず、公認野球規則、アマチュア野球内規、高校野球特別規則を確認して下さい。

【投 手 に 関 す る 規 則】

1．正しい投手板の踏み方（5.07 (a)(1)(2)）

ワインドアップポジション、セットポジションを問わず、投手はその軸足の全部または一部を投手板に触れて置かなければならない。

投手が前記のように軸足を投手板に触れていない場合、審判員はその投手に注意をし、改めさせなければならない。

2．サインを見る姿勢と順序（5.07 (a)(1)(2)）

(1) ワインドアップやセットの姿勢で、捕手のサインを見る場合、投手は軸足を正しく投手板に触れ、ただちに投球動作、またはストレッチに入れる状態でサインを見なければならない。

(2) ワインドアップポジションをとる投手は、先ず投手板に軸足をつけ、次に両手でボールを保持するという順序を守らなければならない。

⑶　セットポジションをとろうとする投手がサインを見る場合は、両手を離し、片方の手は必ず下におろして身体の横につけていなければならない。

⑷　サインを見ている途中に手などを動かすと、投球またはセットポジションへの動作の開始とみなされボークとなる。

　また、サインを見終えた後も、中断することなく一連の動作で投球動作に入るか、セットポジションの姿勢をとらなければボークとなる。

　なお、これまで高校野球では、投手がクラウチングで捕手のサインを見た後に上体を起こす動作を投球動作とみなしていなかった。

　しかし、この動作を投球動作とし、走者がいる場合はボークを適用する。　(5.07 ⒜⑵②、6.02 ⒜⑴)

⑸　打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

3．ワインドアップポジションから投球する投手（5.07 ⒜⑴）

⑴　規則5.07⒜⑴に規定されている姿勢をとった投手は、打者への投球動作（ボディースイングやアームスイング）を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

⑵　投手が投手板に位置して、正規に足を置き、ボールを両手で身体の前方に保持すれば、ワインドアップポジションをとったもの

とみなされ、その姿勢から、

① 打者に投球することができる。

② 走者をアウトにしようとして自由な足を正しく踏み出して送球することもできる。

(5.07 (a)(1)【原注2】②)

③ 軸足を投手板の後方へはずすこともできる。

（ただし、投手板から軸足を後方にはずした投手は、必ず両手を身体の両側におろさなければならない。）

(5.07 (a)(1)【原注2】③)

④ この姿勢から、セットポジションに移ることは禁止されている。

⑤ この姿勢をとった投手が、投手板上から走者をアウトにしようとして塁に送球する場合、投球と同じ方向へ肩、腰、足を動かせば、投球動作とみなされるのでボークとなる。

例えば、右投手の場合、三塁（左投手の場合は一塁）方向に自由な足を踏みだして送球すればボークである。

〔アマチュア野球内規③〕

4．セットポジションでの静止と投球（5.07 (a)(2)【注2】）

セットポジションをとる投手は、投手板を踏んだ後、投球するまでに

(1) 必ずボールを両手で保持したことを明らかにしなければならない。

(2) 投球に先立って、いったんボールを身体の前方で保持し、完

全に動作を静止しなければならない。

⑶　その保持する箇所を移動させてはならず、首以外はどこも動かしてはならない。

5．セットポジションから各塁への送球に関する制約（5.07 ⒹⒹ）

投手が投手板上から各塁へけん制球を投げる場合

⑴　自由な足は、その送球しようとする塁の方向へ送球に先立って直接踏み出さなければならない。

⑵　肩、腰ならびに自由な足は、その送球しようとする塁の方向へ直接向かわなければならない。

⑶　軸足をいったん投手板上で踏みかえたのちに送球すればボークである。

⑷　送球する前に、軸足を折ったり、肩を動かしたりして送球すればボークである。

6．投手板から軸足をはずすときの注意（5.07 Ⓐ⑵【注4】【注5】）

ワインドアップポジションとセットポジションの区別なく、軸足を投手板に触れてボールを両手で保持した投手が、投手板から軸足をはずす場合は、必ずボールを両手で保持したまま投手板の後縁線の後方にはずさなければならない。前方（本塁側）や側方（一塁側や三塁側）にはずしたときはボークである。

また、軸足を投手板からはずした後は、必ず両手を離して身体の両側におろし、改めて軸足を投手板に触れることから始めなければ

ならない。

投手がこれに違反したときは、いずれの場合もボークである。

7．クイックリターンピッチ（6.02 (a)(5)【原注】定義63）

(1) 打者の虚をつくことを意図した投球をいう。

(2) 打者が打者席内でまだ十分な構えをしていないときに投球された場合、塁に走者がいればボークとなり、いなければボールである。

(3) 走者がいないときでも、打者が打つ構えをしていても、この打者の虚をつき通常の投球動作を急に早めて投球した場合も、これに該当する。

8．偽投について（6.02 (a)(2)(3)）

偽投とは、軸足を正しく投手板につけた投手が、二塁の走者に対して、自由な足を正しく直接踏み出したが、実際には送球しなかったプレイを言う。（一塁・三塁への偽投はボークである）